

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科 社会（地歴）

科目 日本史探究

教科： 地理歴史 科目： 科目 日本史探究

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：宮島

使用教科書：（ 詳説日本史探究（山川出版） ）

教科 社会（地歴）

の目標：

【知識及び技能】

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会を実現するための課題を主体的に解決しようとする態度を養う。日本や他国の文化を尊重することの大切さを自覚し、深める。

科目 日本史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当
							時数
1 学期	A 単元 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】 ・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、堅穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	【知識・技能】 ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 ・小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 ・日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	4
	第2章 古墳とヤマト政権 【知識及び技能】 ・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	【知識・技能】 ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	1

1 学期	<p>第3章 律令国家の形成</p> <p>【知識及び技能】 ・律令にもとづく国内統治体制について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。</p>	<p>1 律令国家への道 2 平城京の時代</p>	<p>【知識・技能】 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 ・平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 ・文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と堀田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。 ・平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	<p>【知識及び技能】 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ・東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。</p>	<p>3 律令国家の文化 4 律令国家の変容</p>	<p>【知識・技能】 ・隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 ・蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>【知識及び技能】 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について理解する。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。 ・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ・地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとりて考察する。</p>	<p>1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士</p>	<p>【知識・技能】 ・藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 ・大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 ・地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 ・国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 ・文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。 ・平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。 ・国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。</p>	○	○	○	5
2 学 期	<p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>【知識及び技能】 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>	<p>1 院政の始まり 2 院政と平氏政権</p>	<p>【知識・技能】 ・貴族政治や土地制度の変容などをとらえ、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 ・平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 ・武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。 ・古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。</p>	○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	<p>第6章 武家政権の成立</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを思考する。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 	<p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。 鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。 公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 	○	○	○	11
	定期考査				○	○	○
							合計
							53